

第5次 金山町生涯学習振興計画

令和5～9年度



金山町生涯学習推進会議

目 次

第1章 計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨	1
2 計画の性格	1
3 計画の期間	1

第2章 現状と課題

1 生涯学習を取り巻く町の現状と課題	2
2 町民の生涯学習に関する意識	3

第3章 目指す姿

1 基本目標	4
2 目指す姿	4

第4章 施策の展開

1 生涯学習の推進	6
2 生涯スポーツの推進	8
3 文化芸術の振興	9

第5章 生涯学習推進体制

1 生涯学習推進機構	11
2 関係機関・団体との連携	11
3 計画の評価と見直し	11

金山町民の生涯学習に関するアンケート調査結果	12
------------------------	----

第1章 計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

金山町では平成30年度から令和4年度までを期間として「第四次金山町生涯学習振興計画」を策定し、計画に掲げる目標の実現に向けて様々な取組を行ってきました。

前計画から5年が経過し、私たちを取り巻く環境は大きく変化しました。人口減少や少子高齢化が急速に進み、地域コミュニティに大きな影響を与えているほか、ICTの進展が生活に変化をもたらし、新型コロナウイルス感染症や自然災害の発生により人々の安全に対する意識はこれまで以上に高まっています。

このような社会の変化に伴い、子どもから高齢者まで生涯にわたって知識を身につけ、それを生かすことが重要になっています。

しかし、住民の学習ニーズの多様化、人口減による教室・講座の参加者減少や固定化、リーダーシップを発揮できる人材の不足など課題が山積しており、地区文化祭など各種イベントや教室などの実施も危ぶまれる状況です。

すべての人が学びたいときに学ぶことができ、多様な人と関わり学びあうことで、地域の課題解決や地域での活躍につながる社会の実現、そして「第五次金山町総合計画」に掲げる町のキャッチフレーズ「自然の恵みと 笑顔あふれる かねやま 〜思いやり 支えあいのまち 〜」を実現するため、その羅針盤となる生涯学習振興計画をここに策定するものです。

2 計画の性格

この計画は、町の最上位計画である総合計画の部門別計画として町の生涯学習を推進するための施策等について定めるとともに、国及び県における関連計画と整合性を図った計画とします。生涯学習の対象は極めて広く奥深いものであり、日々の暮らしと密接な関係があるばかりでなく地域の活性化にも貢献しうるものであることから、あらゆる関係者の取組によってその推進を図っていくことを目指して策定します。

3 計画の期間

令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

第2章 現状と課題

1 生涯学習を取り巻く町の現状と課題

(1) 人生100年時代の到来

いわゆる「人生100年時代」を迎え、日本は健康寿命が世界一の長寿社会となりました。また「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと価値観が変わる中、社会生活環境は複雑化し、人それぞれ様々なかたちで人生を送るようになっていきました。この傾向は町においても同様であり、生涯にわたりそれぞれのライフステージに合わせて知識や能力を身につけることができる学習の機会が求められるようになりました。長い人生の中で、生涯学習を通じて「生きがい」の発見につながることを期待されています。

(2) 人口減少と少子高齢化の進行

町の人口は1960年の10,119人をピークに減少が続き、2022年4月には1,837人と、ピーク時の5分の1弱にまで減っています。少子化や現役世代の減少により地域の様々な場面で担い手が不足し、地域社会全体の教育力低下が懸念されています。

生涯学習の現場では学びを推進する担い手や参加者の減少により、今までどおりのやり方で講座等を行うことが難しくなっている場面が見られるようになりました。このため、地域で活躍するリーダーの育成や住民の地域活動への参加促進が、従来にもまして必要となっています。

また、少子化や核家族化により家庭の教育力の低下も懸念されています。そのため学校、家庭及び地域が連携して子どもを育てる仕組みづくりを今まで以上に進めるとともに、「親の学び」を支援しながら子育てしやすい環境をつくっていくことが重要です。

(3) ICTの進展

情報通信技術（ICT）の飛躍的な発展は住民の日常生活に大きな変化をもたらしており、今後もこの傾向はますます強くなるものと予想されています。

ICTの活用は移動の手間がなく場所を選ばずに生涯学習関係の講座が受けられるというメリットがあり、これまで生涯学習に接点の薄かった若い世代にとって新たに参加する機会となることが期待されます。

一方で、高齢者の中にはインターネットの環境がない、または使い方がわからないという方も多く、ICTのメリットを享受していくうえでその環境整備や技術的な支援が大きな課題となっています。

町民すべてがICTによる恩恵を享受できるような環境整備に努めるとともに、ICTのメリットを最大限にいかした生涯学習の取り組みを進めていくことが重

要です。

(4) 災害の頻発化・激甚化と防災意識の高まり

平成23年に発生した新潟・福島豪雨災害や福島第一原子力発電所の事故を受け、防災体制の確立の重要性とともに、家族や地域、社会とのつながりや絆、相互の助け合いの大切さが強く認識されるようになりました。

近年は地震や大雨をはじめとする自然災害、新型コロナウイルスなどの感染症、交通事故やインターネット犯罪の増加など、様々な分野において安全・安心に対する関心が高まっています。また、自然災害が頻発化・激甚化していることから、防災・減災への備えと正確な情報の確保・発信とともに、命を守る防災教育の推進や防災意識を高めていくことが極めて重要になっています。

2 町民の生涯学習に関する意識（町民の生涯学習意識調査）

生涯学習振興計画を策定するにあたって、全住民の各年代から無作為に抽出してアンケートを実施しました。その結果、180名中97名から回答を得ることができました（回収率53.9%）。アンケート調査結果については、12ページ以下に掲載してあります。

第3章 目指す姿

1 基本目標

第五次金山町総合計画ではまちづくりのキャッチフレーズを次のとおり定めています。

自然の恵みと 笑顔あふれる かねやま
～ 思いやり 支えあいのまち ～

金山町には美しく豊かな自然、住民同士が支えあう風土、のどかな雰囲気など、都市部では手に入らない宝物がたくさんあります。このキャッチフレーズは、町民が「ずっと住み続けたい」と思い、進学や就職で町外に転出した人も「いつかは戻りたい」と考え、さらに都市部の住民が金山に魅力を感じ「ここに住んでみたい」と思えるようなまちづくりを進めることを目標にして設定されたものです。

また、総合計画では教育・文化における基本目標を次のとおり定めています。

自然と共生し郷土を愛するひとづくり

これはまちづくりのキャッチフレーズと同様、金山町の豊かな自然環境や先人が培ってきた地域の文化を大切に守り、次世代へ継承していくとともに、地元を愛し、誇りに思い、いつまでも金山町で暮らしたいという人の増加を図ることを目標として定められたものです。

2 目指す姿

第五次金山町総合計画では、以下の3つの将来像の実現を目指しています。これら3つの将来像は、物質的な豊かさがあっても、そこに突然の大きな社会的変化や先の見えない不安がつきまとう時代の中で、「本当の幸せは身近なもののなかにある」という考えから掲げられたものです。

(1) 一人一人が輝くまち

子どもから高齢者までみんなが希望をもち、夢や生きがいの実現のために自ら行動することが大切です。一人一人がその実現のために取り組み、金山町で生活するすべての人が活躍できる町をめざします。

(2) 幸せを実感できるまち

金山町での暮らしを楽しみ、子どもから高齢者までみんなが笑顔でいきいきと暮らすことができる町の実現が重要です。地域や世代に関係なく、金山町で生活する

すべての人が幸せを実感できる町をめざします。

(3) 日本のふるさと

地域の魅力ある大切な資源を受け継ぎながら、豊かな自然環境を守り、ふれあいのある社会環境をはぐくむことが重要です。自然と調和した日本の原風景ともいえる環境の中で、みんなが住み続けたい町をめざします。

第4章 施策の展開

1 生涯学習の推進

(1) ライフステージに応じた学びの支援

幼児から高齢者まで、様々な背景を有するすべての人々が学びたいときに学ぶことができるよう、多様な学習ニーズに対応した学習機会の提供と環境の整備を図ります。

① 幼児期

- ・幼児期から本に親しむ機会をつくるなど、幼いころから学びの習慣が身につけられるよう支援します。
- ・育児に関する情報の提供や保護者同士の交流の場をもうけるなど、家庭教育に関する学びの充実を図ります。

② 青少年期

- ・学校、家庭、地域が連携し、多様な大人とのかかわりを通じた学びの充実を図ります。
- ・心豊かな人間性や社会性をはぐくむため、地域活動やボランティア活動を支援します。

③ 成人期

- ・多様化する学習ニーズに応じた学びの機会の提供と支援を行うとともに、実践的な学習や将来のキャリアにつながる学習機会の充実を図ります。

④ 高齢期

- ・健康で充実した生活やいきがいのある生活の実現のため、様々な学びの機会の提供と支援を行います。
- ・豊富な経験や知識をいかせる機会の充実を図るとともに、地域づくりへの参画を支援します。

(2) 多様な学習機会の充実と支援

生涯学習は「各自が自発的意思に基づき、必要に応じて自己に適した手段や方法で行うもの」とされています。多様化する町民の学習ニーズに対して、講座など集団型学習方式にとらわれず、個別あるいは少人数で行う学習活動も支援していきます。

① 多様化する町民ニーズへの対応

- ・従来の学習方法のほかICTを活用した学習など多様な学習の機会の充実を図るとともに、新しい技術活用のための学習機会の充実に努めます。
- ・多様な学習ニーズに応じるため、様々な情報の収集と提供に努めます。

② 情報化社会への対応

- ・ICTの飛躍的な発展とそれに伴う産業構造の変化に対応した学習機会の充

実を図ります。

- ・町民すべてがＩＣＴによる恩恵を享受できるような環境整備に努めるとともに、ＩＣＴのメリットを最大限にいかした生涯学習の取り組みを進めます。

③ 命を守る防災教育の推進

- ・地震、豪雨、台風など、いつどこで発生するかわからない自然災害に対し、多様な人々が連携して防災に関する出前講座や地域の防災組織の人材育成などを行います。
- ・町民一人一人が「自らの命は自らが守る」意識をもてるようにするための防災教育を進めます。

（３）各種団体支援とリーダー育成

生涯学習を具体的に推進するためには、それに関わる行政や民間の団体・個人の質の向上と指導者の確保・養成が必要です。これまでも関係職員の研修や適正配置、各種スポーツの指導者や社会教育指導員の育成などを行ってきましたが、今後も引き続き各種団体への支援と地域のリーダーの育成に努めます。

- ・生涯学習に携わる職員及び指導者の研修機会の充実を図ります。
- ・学びの活動をコーディネートする人材の育成と活用を図ります。
- ・情報の収集と積極的な提供に努め、各種団体の活動支援と生涯学習活動の取組により、団体や地域のリーダー育成に努めます。
- ・次世代を担う若いリーダーを発掘及び育成し、地域で活躍できる仕組みづくりに努めます。

（４）生涯学習施設の充実と既存施設の利活用

以下に掲げる町内の諸施設（令和５年４月１日現在）は、いずれも「町民の生涯にわたる学習」を支援するための生涯学習施設という位置づけをすることが可能であり、これまでも実際に様々な学習機会の提供を行ってきました。今後も相互の連携を図り、効果的な利活用ができるよう施設の充実を図っていくことが必要です。

また、社会の変化により町民のニーズに合わなくなったとみなされる施設があれば、新たな利活用や用途変更、廃止について検討していきます。

① 社会教育施設

- ・中央公民館
- ・地区公民館
- ・歴史民俗資料館（道の駅「奥会津かねやま」内）
- ・芸能伝承館（ふるさとむかし館）

② 社会体育施設

- ・町民体育館
- ・地区体育館
- ・地区グラウンド

- ・多目的体育施設（御神楽館）
- ・テニスコート
- ・町営グラウンド・ゴルフ場
- ③ 学校教育施設
 - ・町立小学校 2 校
 - ・町立中学校 1 校
- ④ その他の施設
 - ・老人福祉センター（ゆうゆう館）
 - ・多目的共同住宅
 - ・若者交流センター（あすなろ館）
 - ・自然教育村会館
 - ・農業実習館
 - ・生活体験館
 - ・妖精美術館
 - ・フェアリーランドかねやまスキー場

2 生涯スポーツの推進

（1）スポーツ活動の推進

誰もが生涯にわたって気軽にスポーツを楽しみ、心身ともに健康で豊かな生活を営むことができるよう、多様なニーズにこたえるスポーツの機会の提供に努めるとともに、各種スポーツ団体の育成や支援を進め、幅広い交流や地域の活性化を目指します。

- ① 健康・体力づくりのためのスポーツ活動の推進
 - ・健康・体力づくりのためのスポーツ活動を推進するため、関係機関と連携をとりあいながら、健康に対する正しい知識の普及・啓発に努めます。
- ② 地域におけるスポーツ活動の推進
 - ・各地区における社会体育活動に対する支援を進め、身近なところからスポーツに親しむことのできる環境づくりに努め、スポーツを通じた地域づくりを推進します。
- ③ スポーツ少年団活動の推進
 - ・スポーツ少年団活動を支援することにより、スポーツを通しての青少年の健全育成と体力向上を推進します。
 - ・スポーツ少年団を取り巻く環境について、その課題解決に向け、関係機関と連携し、全体を網羅する取組を進めます。
- ④ 各種大会の開催や各種スポーツの普及啓発
 - ・体育協会やその傘下団体である各団体やスポーツ少年団等と連携し、各種スポーツ情報の提供や各種大会の開催を推進します。
 - ・コロナ禍で各種大会を中止せざるを得ない状況が続きましたが、今後は中止

されていた大会の開催に向けて、大会の在り方や規模、運営方法など、関係機関との話し合いを進めます。

(2) スポーツ団体の育成

体育協会などのスポーツ団体は地域のスポーツ振興の核となる団体であり、十分な活動ができるように今後も各種支援を実施し、その育成に努めます。

① 体育協会の体制強化

- ・体育協会の運営支援及び人材の育成強化を図り、体育施設の運営やイベント開催などを主体的に実施できる体制を整備します。

② 指導者の育成と派遣可能な体制整備

- ・体育協会、スポーツ少年団、各競技団体、各学校などの組織と連携し、各種講習会等への参加を促しながら、指導者の育成を図ります。

③ 部活動を支える地域のスポーツ環境整備

- ・地域における青少年スポーツ活動の充実をめざし、地域部活動制度の導入に向け、関係団体等と連携し、体制を整備するための検討を進めます。

(3) スポーツ施設の整備・充実

町内にあるスポーツ施設について、今後はその有効な利活用が課題となってきます。住民の要求に即した施設の整理・整備を進めるとともに、老朽化への対応や安全性の確保のために、各施設の改修を計画的に進めていきます。

- ・誰もが快適で安全に安心して利用できるよう、体育施設の整備・改修、適切な維持管理・運営を計画的に進めていきます。
- ・年齢や時代に即したニュースポーツに対応できるよう、施設を充実させていくとともに、既に役割を終えたとみなされる施設があれば、今後の在り方について検討していきます。

3 文化芸術の振興

(1) 文化団体の支援・育成

町の文化活動は文化協会を中心として自主的な活動が活発に行われていますが、会員の高齢化や後継者不足により、今までどおりの活動を今後も継続していくことは難しくなると考えられます。文化芸術活動活性化のため文化協会に対する支援を継続するとともに、新たな取組を模索していきます。

(2) 文化芸術に触れる機会の提供

優れた文化芸術に触れそれを学ぶことは、住民の生活を精神的に豊かにするものであり、その重要性は高いものがあります。各種制度や事業等を積極的に活用し、誰もが身近なところで気軽に芸術文化に触れることのできる機会をつくり、芸術文化の普及に努めます。

そのために他市町村の芸術文化団体との交流・連携の機会を創出し、新たな文化芸術の創造につなげます。

(3) 文化財の保存・活用

町には多くの文化財がありますが、必ずしも有効に活用できているとはいえないのが現状です。必要な人材などが不足しているためであり、今後の課題となっています。

今後は必要な人材の確保・育成に努めるとともに、文化財調査委員や各地区文化財保護管理者の方々と連携し、各種調査の実施や、後世に引き継ぐ史跡や文化財の保護、保管、整理に努めます。

また文化財保護の活動をとおして地域に活力を与える取組としていくとともに、地域資源としての文化財に光をあてることによって観光交流につなげるなど、地域の活性化を図っていきます。

(4) 後継者の育成

過去から現在へと続いてきた貴重な伝統文化をさらに未来へとつなげていくためには、町内の歴史・文化に関わる資料を適切に収集・保存し、次世代へと継承していく必要があります。現在は町内各所に分散して保存されている資料を1か所にまとめ、適切に保存・管理していく体制づくりを検討します。

また町の歴史や文化について、見て・触れて・体験して、楽しみながら学べる機会の充実に努めます。

第5章 生涯学習推進体制

1 生涯学習推進機構

生涯学習を推進していくために、庁内に「生涯学習推進会議」を設置し、生涯学習推進方針・施策の決定を行います。また、具体的な推進方策の検討の場として、「生涯学習幹事会」を設置します。

生涯学習理念の普及と啓発に努めるとともに、全庁的に存在する教育的機能の連携協力体制の充実を図り、行政の総合的対応で生涯学習に取り組みます。教育委員会事務局においても、学校以外の場での学習機会の提供やハード・ソフト双方にわたる整備など、広く社会教育、芸術文化、スポーツ等の振興を図ります。

2 関係機関・団体との連携

生涯学習の分野は非常に多岐にわたるため、生涯学習を推進するためには、行政のみの対応にとどまらず、町内のあらゆる機関との連携が必要となります。

沼沢湖水まつり、ごつつおまつり、各地区文化祭、雪まつり等において、学校、各種社会教育関係団体、自主グループその他の民間団体などと連携を図りながら実施してきましたが、今後もそれぞれの特性を生かしながら、全町的な連絡・調整を図り、体系的に学習機会を設定していきます。

3 計画の評価と見直し

本計画の推進にあたって、目標指標の設定については、第五次金山町総合計画に掲げる目標指標に合わせることにします。なお、本計画の点検・評価は、教育行政外部評価委員会において実施します。また、本計画の内容については、今後の社会情勢の変化や計画の進行状況等を踏まえ、柔軟に見直しを図っていきます。

金山町民の生涯学習に関するアンケート調査結果

1. 今回のアンケート調査の概要

i) 調査の目的

本アンケートは、令和5年度～9年度の「金山町生涯学習振興計画」を作成するため実施したものである。アンケートでは、町民の学習活動の実態や行政に対する学習活動支援への要望等を調査した。

ii) 調査対象と選び方の条件

・対象 満18歳以上の町民

・選出方法 各年代から以下の人数を無作為抽出

年齢別	男	女	合計
10・20歳代	15	15	30
30歳代	15	15	30
40歳代	15	15	30
50歳代	15	15	30
60歳代	15	15	30
70歳以上	15	15	30
合 計	90	90	180

※ 年齢の起算日は令和5年1月1日とする。

iii) 調査方法

郵送調査

iv) 実施期間

発送は令和5年1月27日、回答期限は令和5年2月15日とした。

2. 回答結果

・回答数 97

・回答率 53.9% (平成30年度実施時 46.1%)

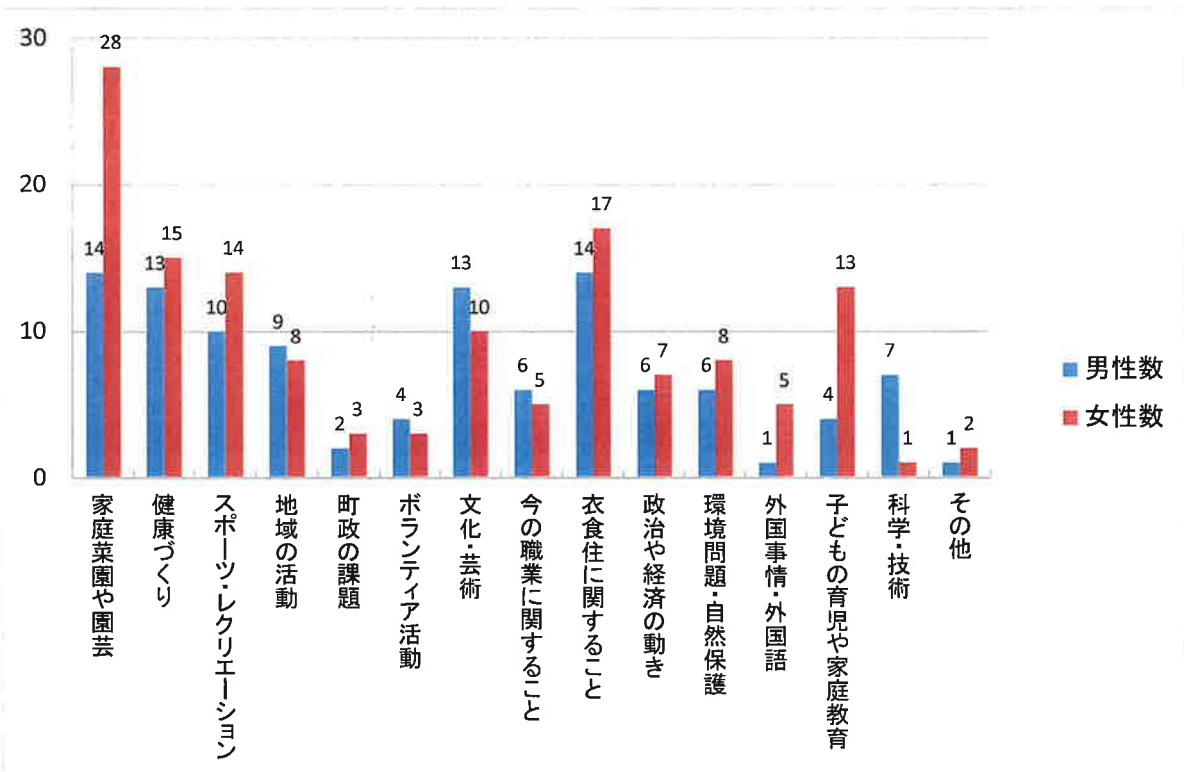
・回答者の情報

性別（問1）	男性	43
	女性	52
	無回答	2
年齢（問2）	10・20歳代	20
	30歳代	7
	40歳代	16
	50歳代	15
	60歳代	18
	70歳以上	19
	無回答	2
職業（問3）	農林漁業	10
	自営業	13
	会社員・公務員	29
	パート・アルバイト	16
	専業主婦・主夫	9
	学生	1
	無職	13
	その他	4
	無回答	2

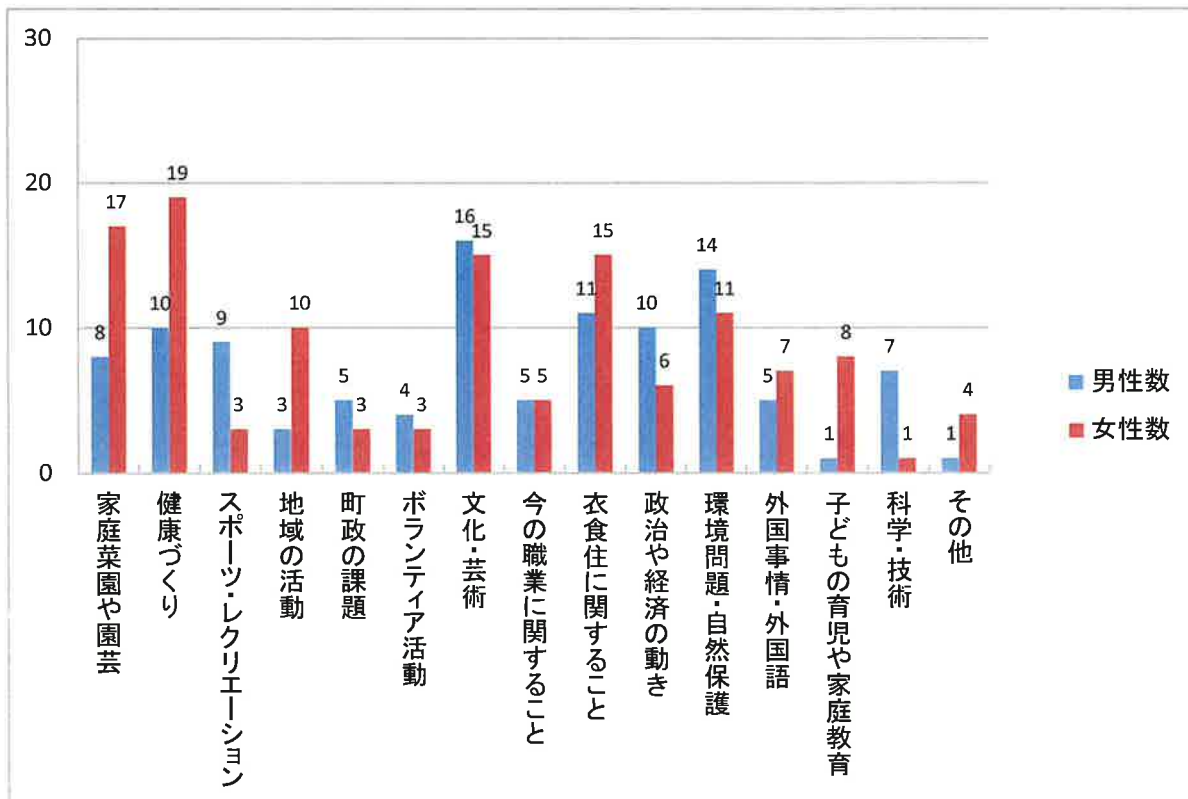
※ 問4以下の回答結果、自由記述回答一覧は次ページ以降に掲載

【各設問にみる男女別回答数】

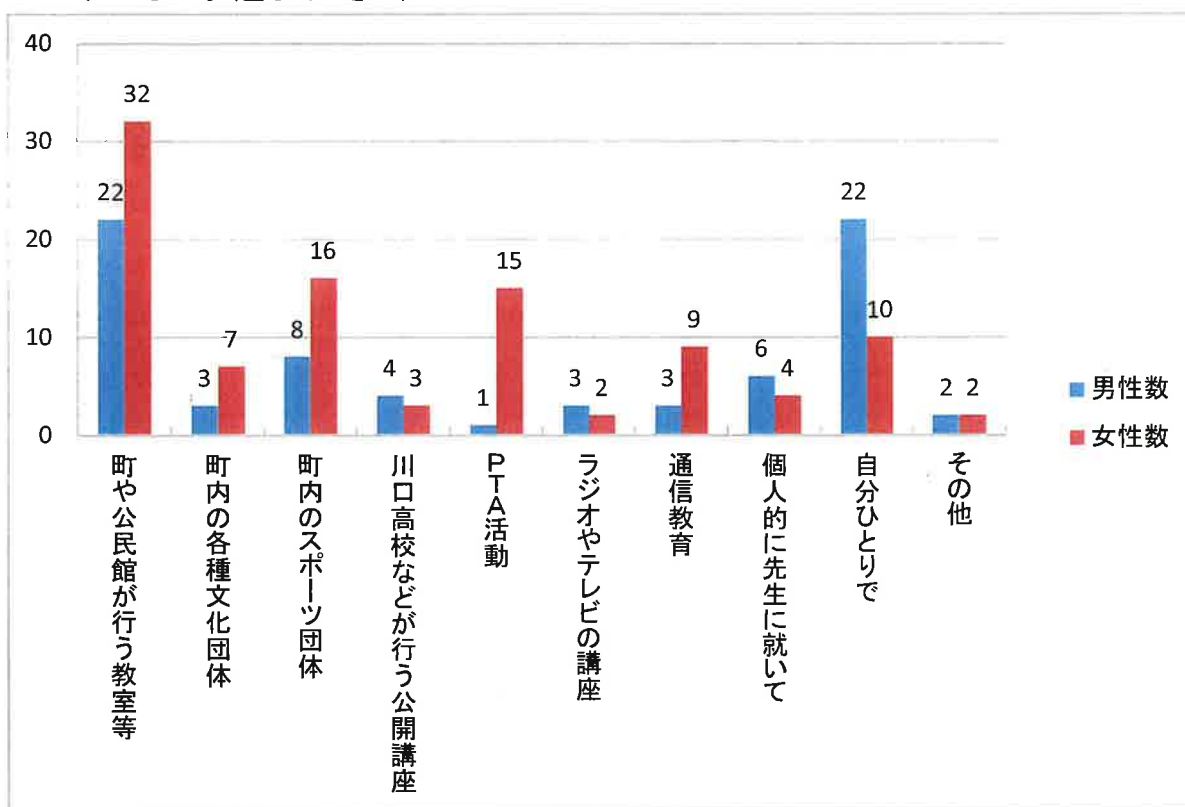
問4 あなたが普段関心を持っていることは何ですか。(3つまでお選びください)



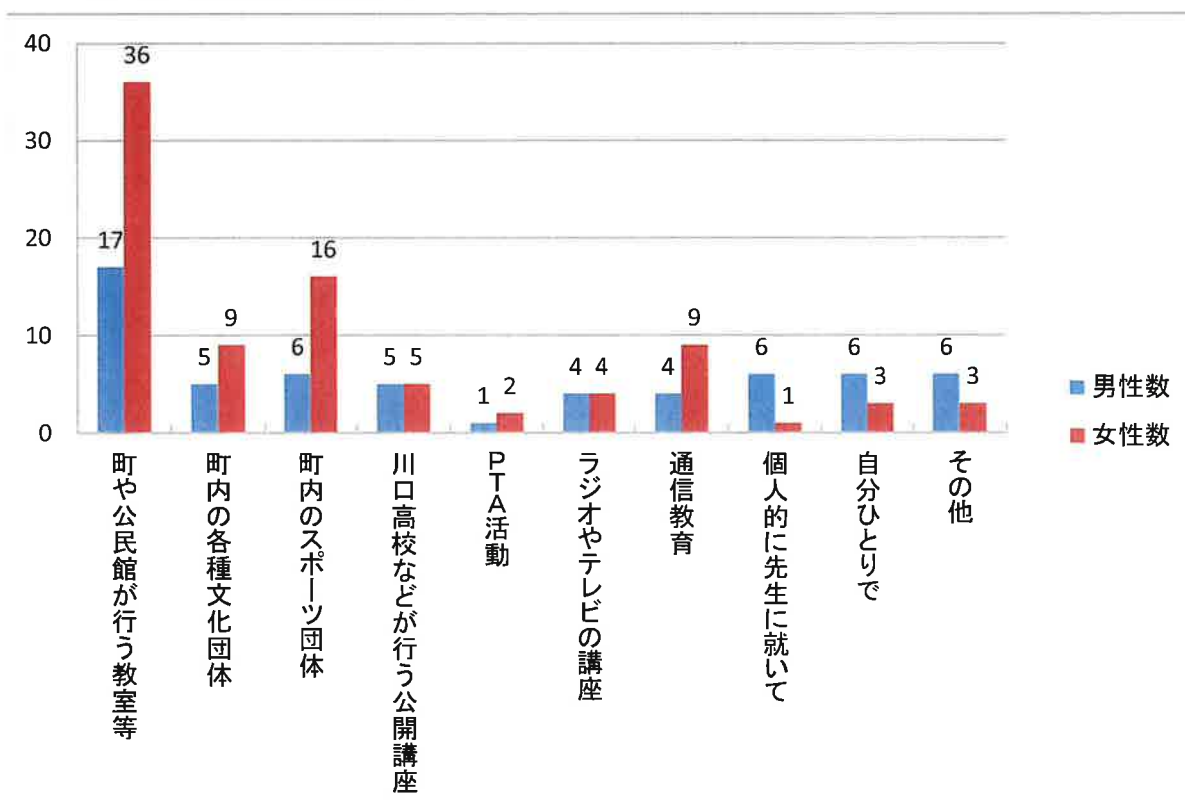
問5 あなたが今後学習したい(またはしなければならない)と考えることはなんですか。(3つまでお選びください)



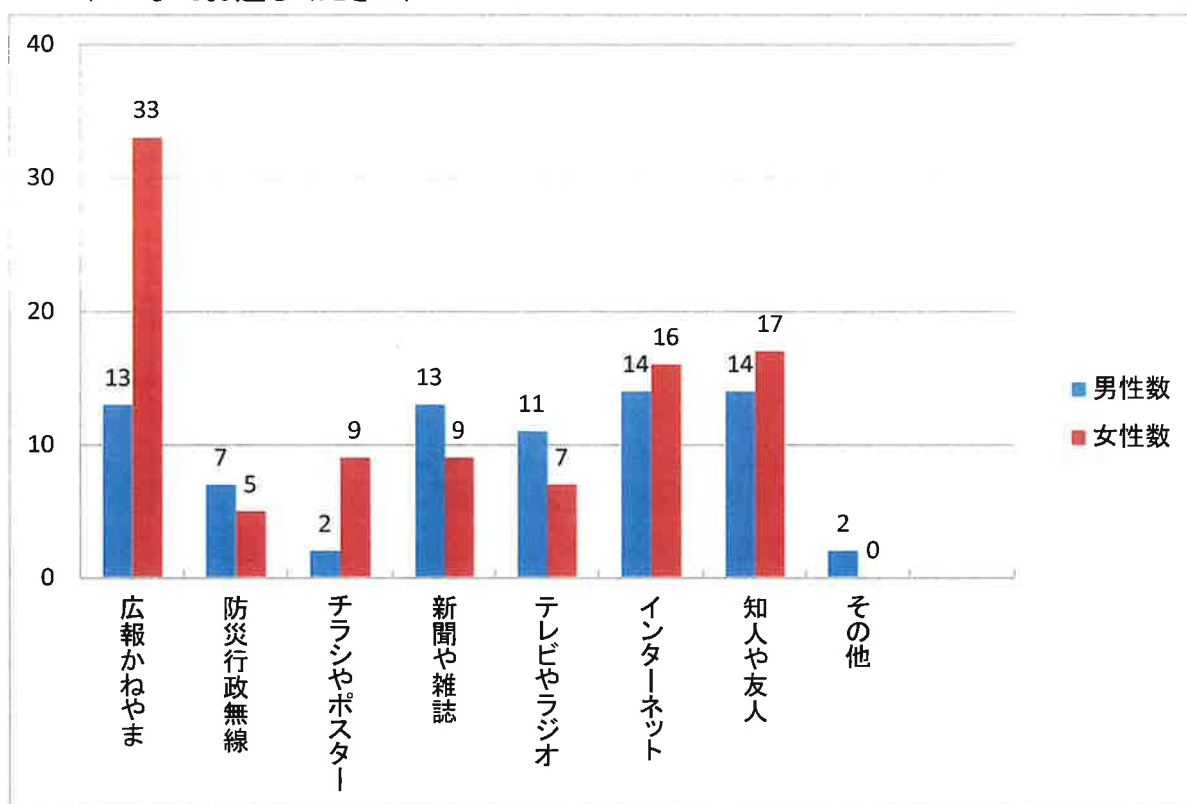
問6 あなたが学習を行うときに、どのような機会を利用していますか。
(3つまでお選びください)



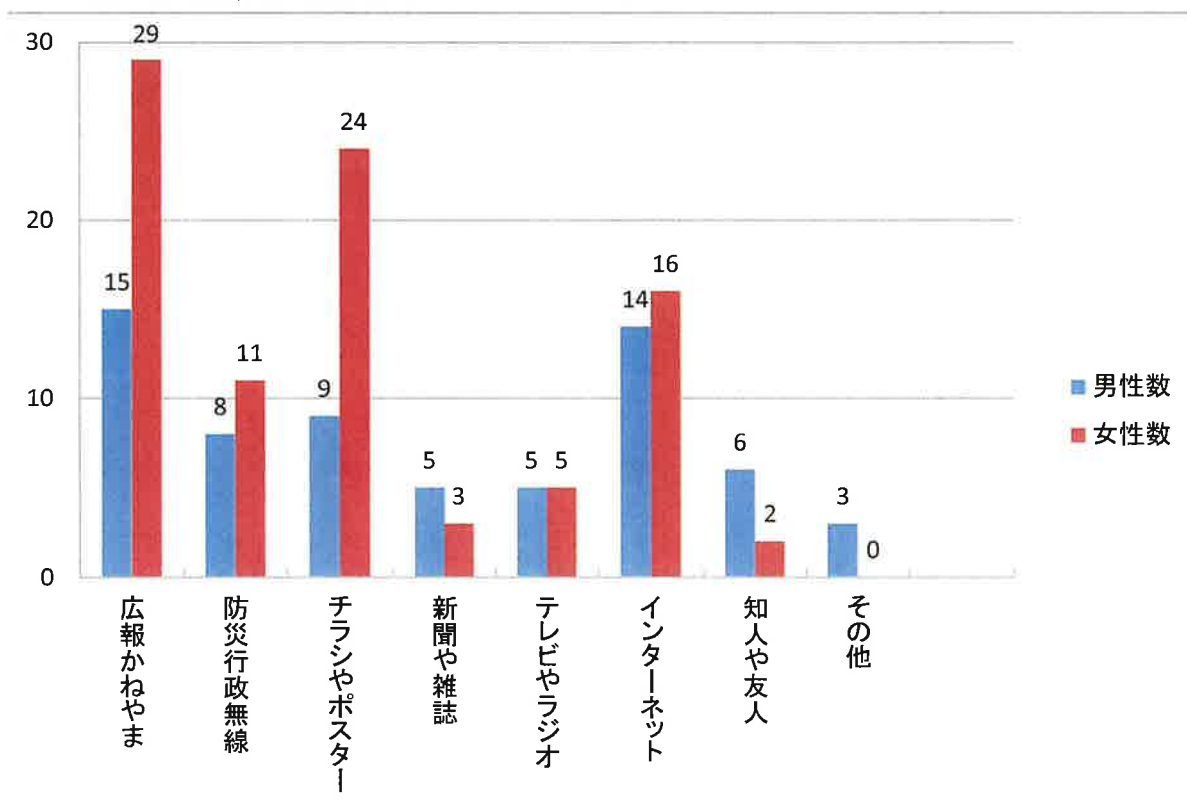
問7 今後、利用したい機会や充実してほしい機会はどれですか。
(3つまでお選びください)



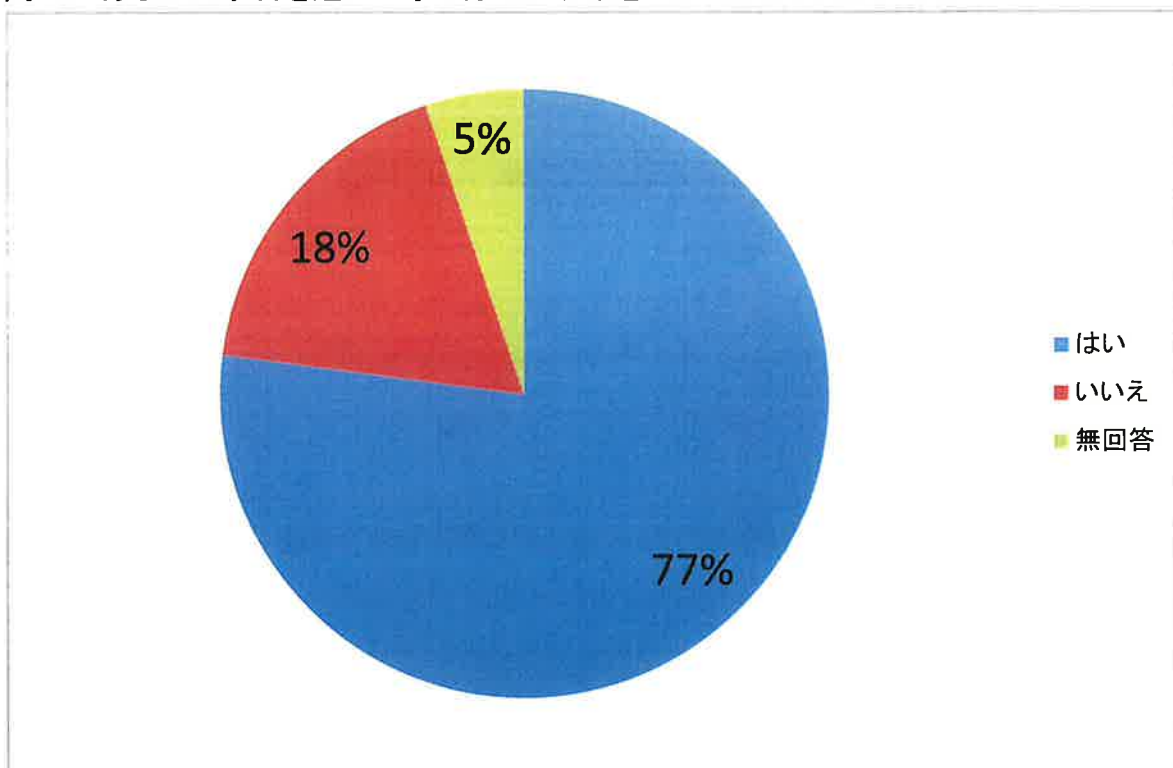
問8 あなたが学習活動の機会を知るときに、どのような方法を利用していますか。
(3つまでお選びください)



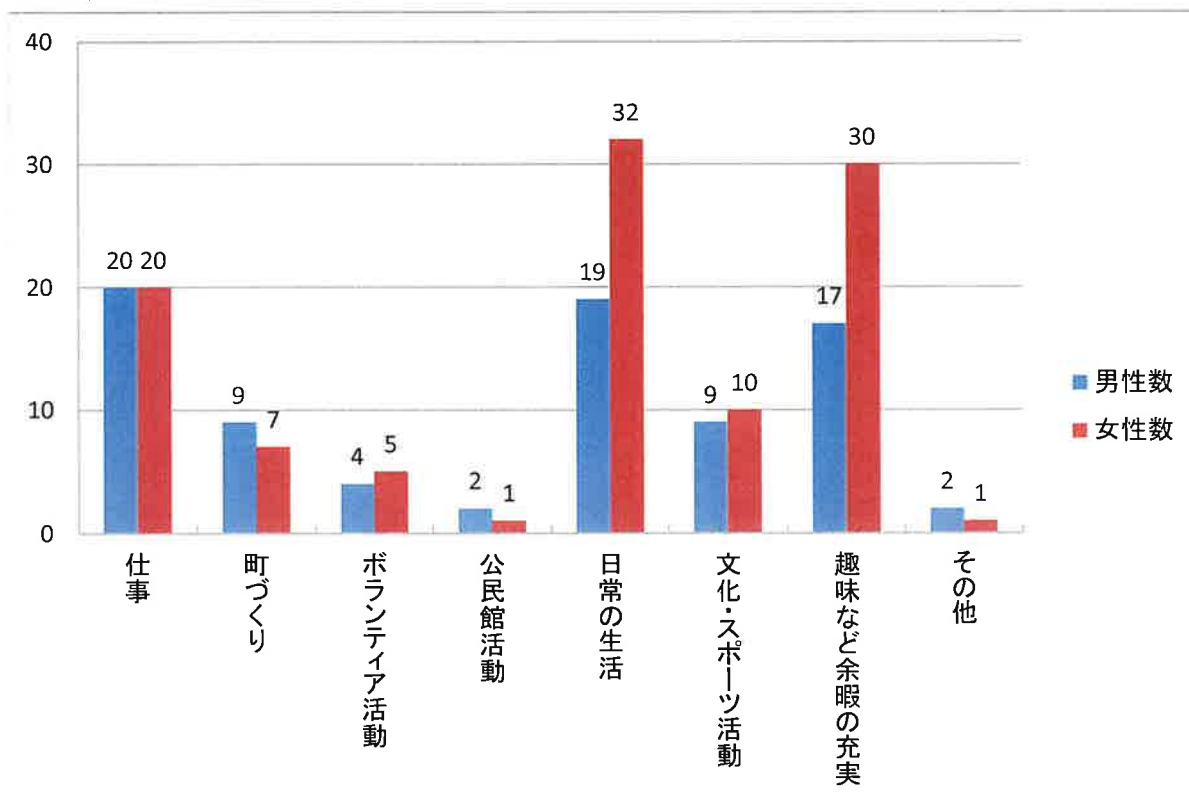
問9 今後、充実してほしい方法はどれですか。
(2つまでお選びください)



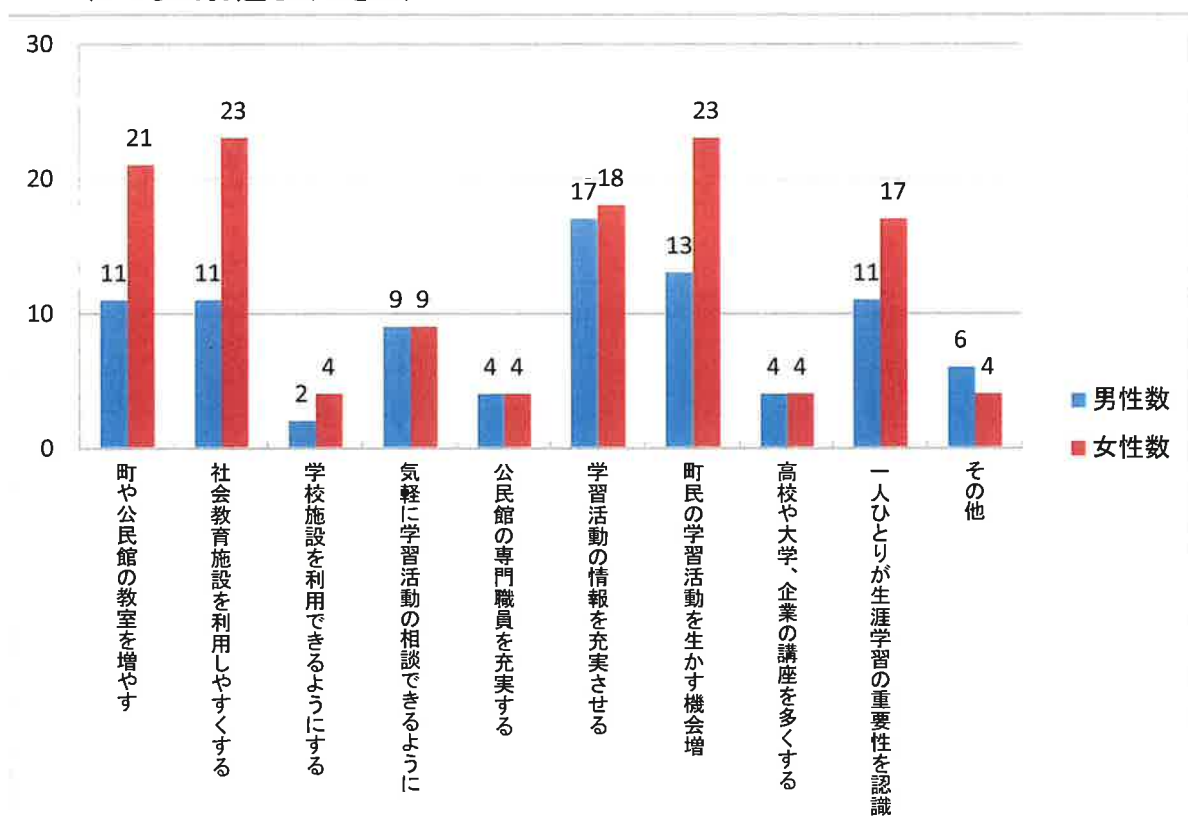
問10 あなたは学習を通して身に付けた成果を生かしたいと思いますか。



問11 学習して身に付けたことをどのようなことに生かしたいですか。
(3つまでお選びください)

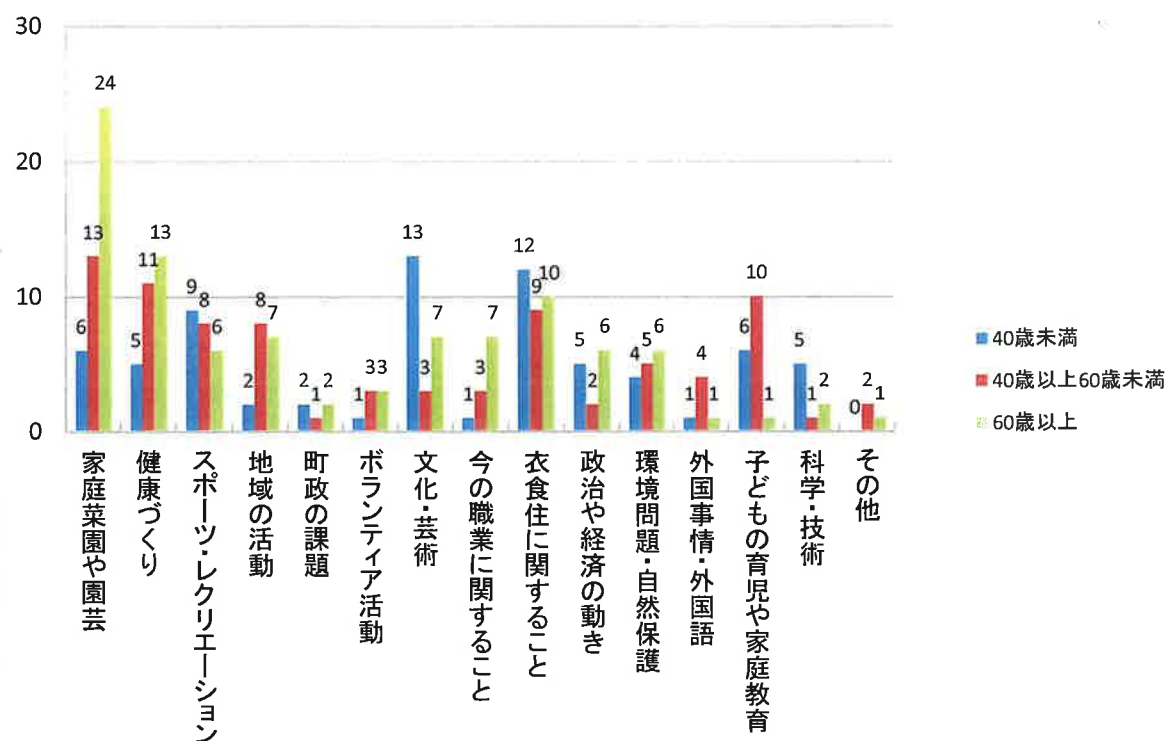


問12 あなたは、今後、町民の学習活動を充実させるために何が必要だと考えますか。
(3つまでお選びください)

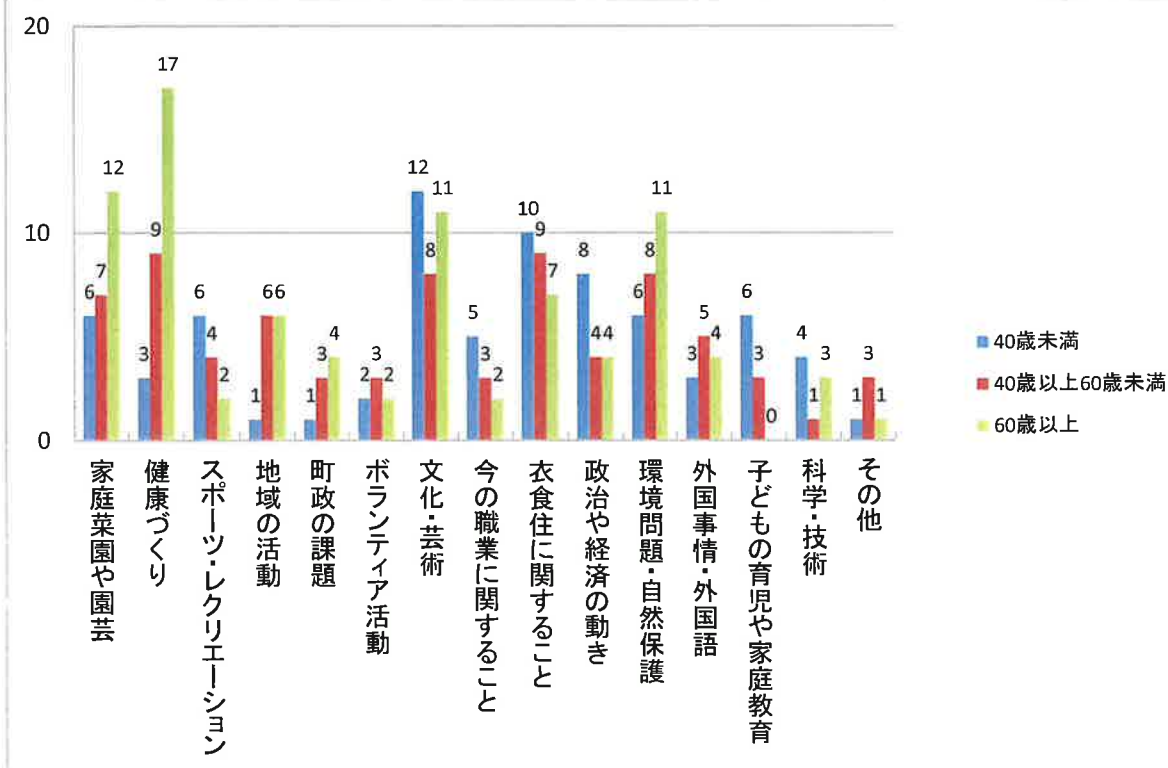


【各設問にみる世代別回答数】

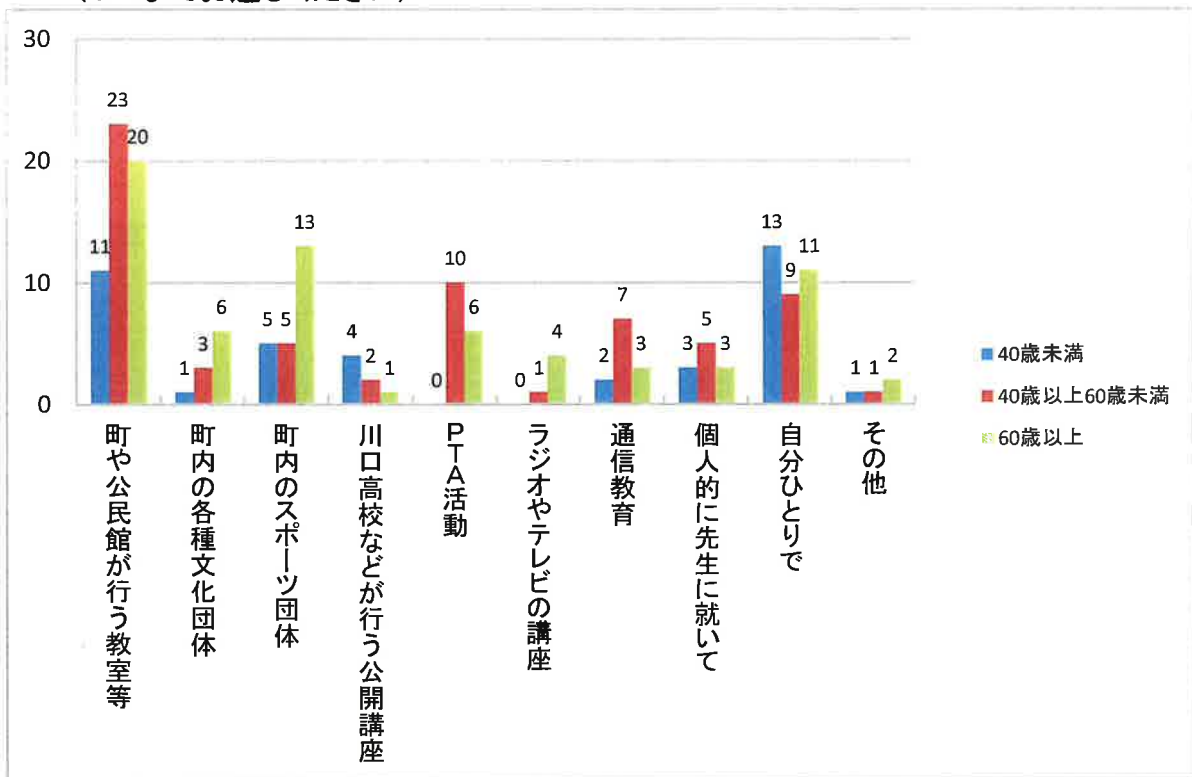
問4 あなたが普段関心を持っていることは何ですか。(3つまでお選びください)



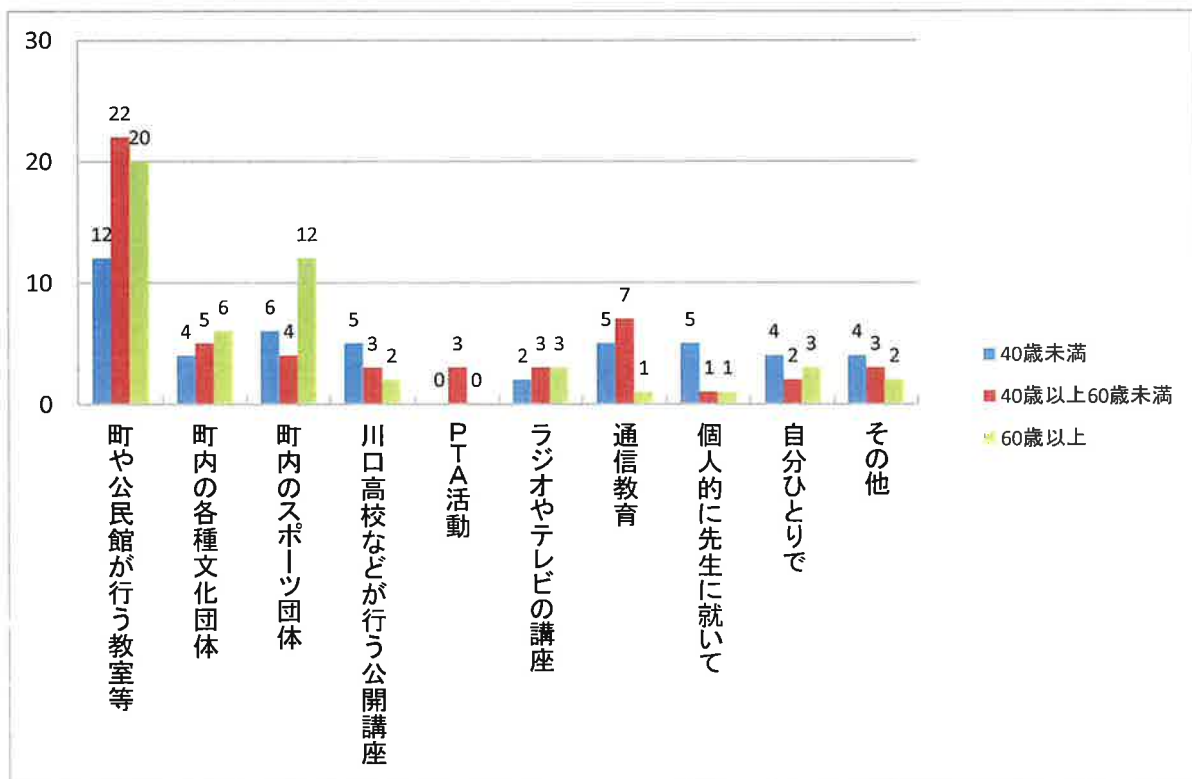
問5 あなたが今後学習したい(またはしなければならない)と考えることはなんですか。(3つまでお選びください)



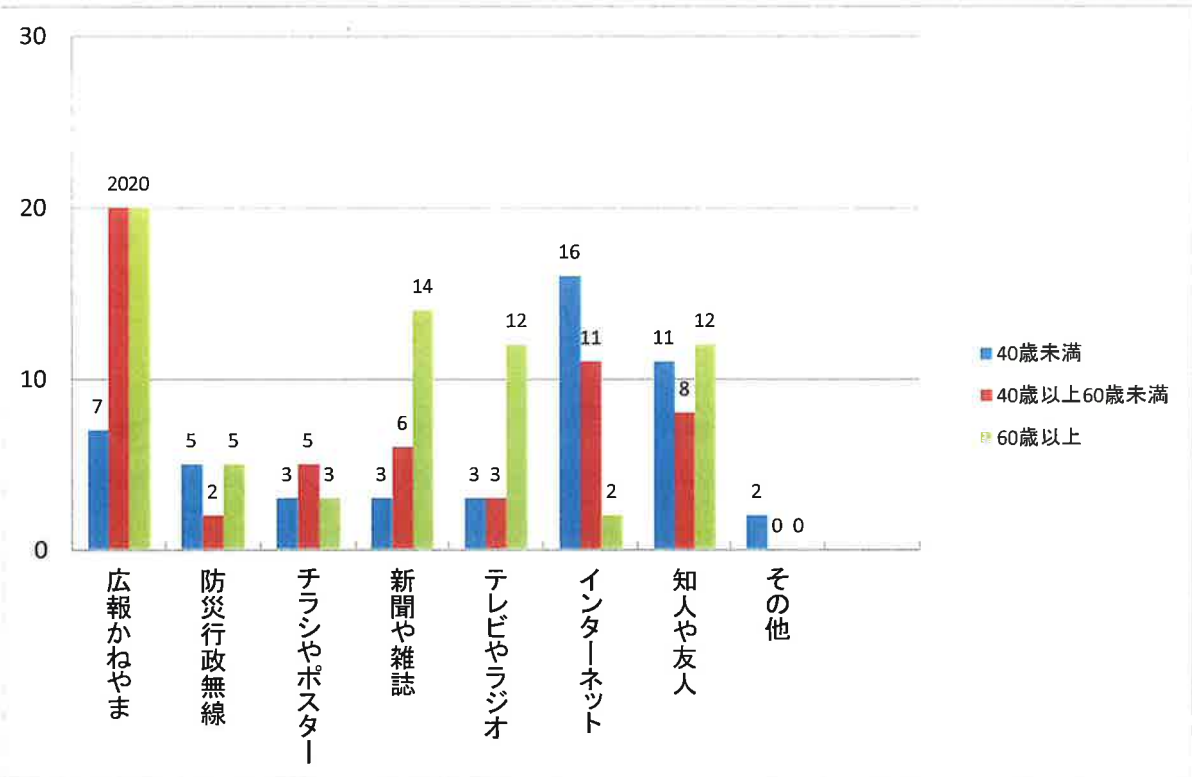
問6 あなたが学習を行うときに、どのような機会を利用していますか。
(3つまでお選びください)



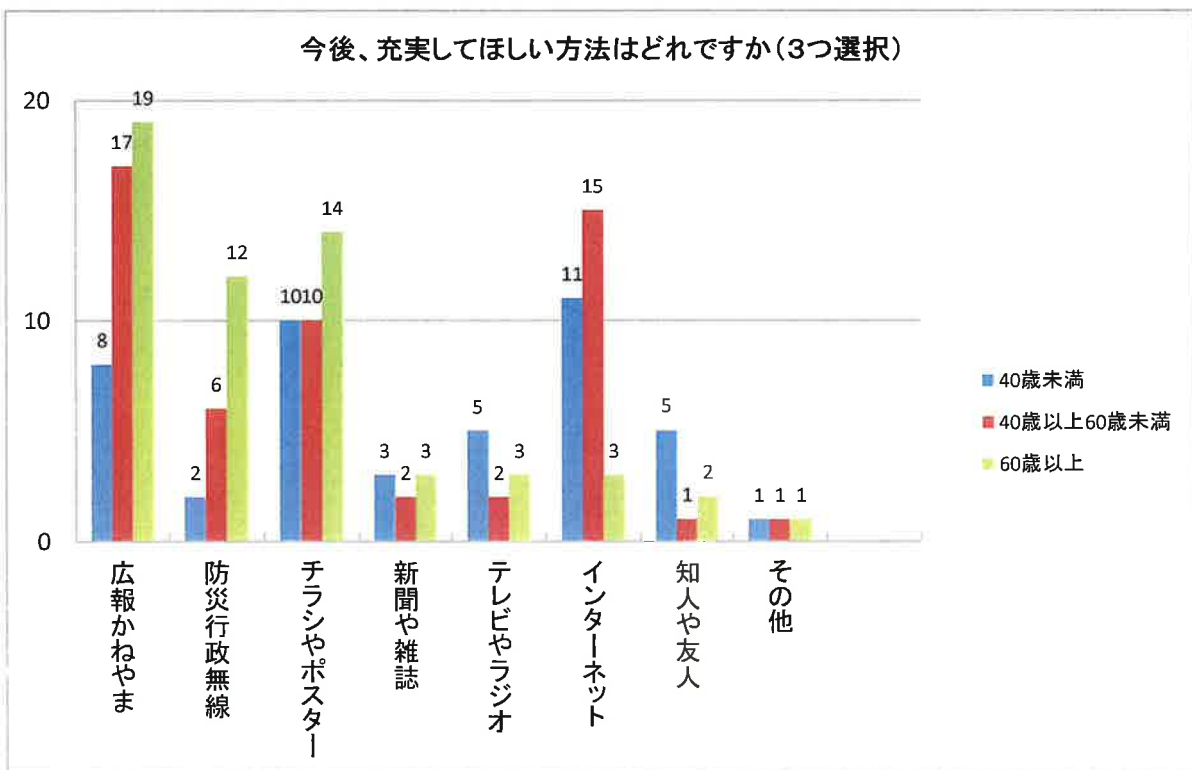
問7 今後、利用したい機会や充実してほしい機会はどれですか。
(3つまでお選びください)



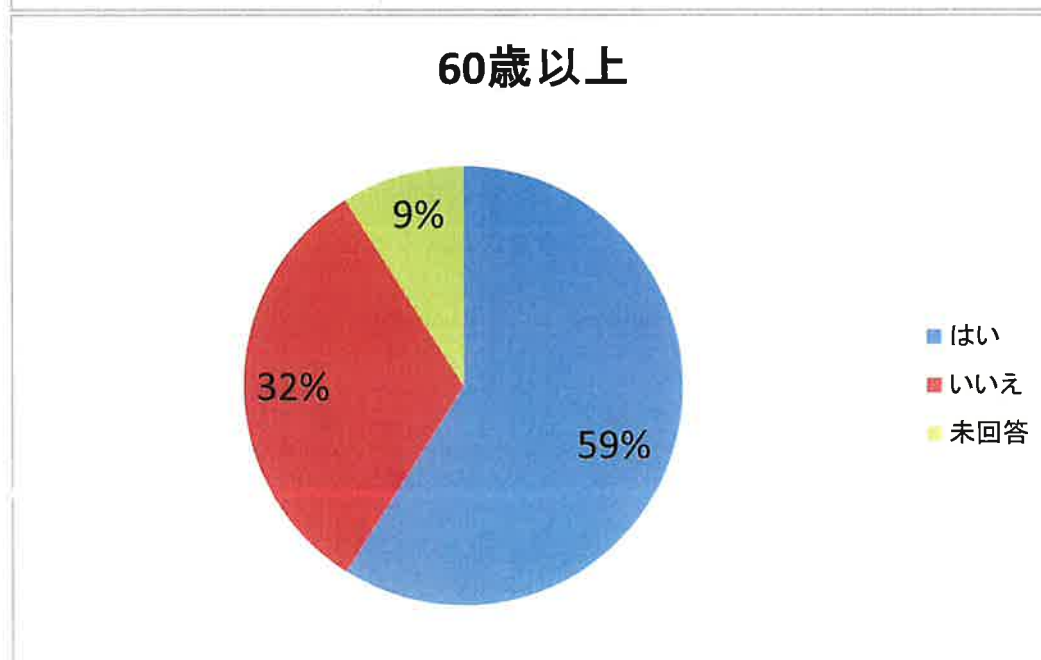
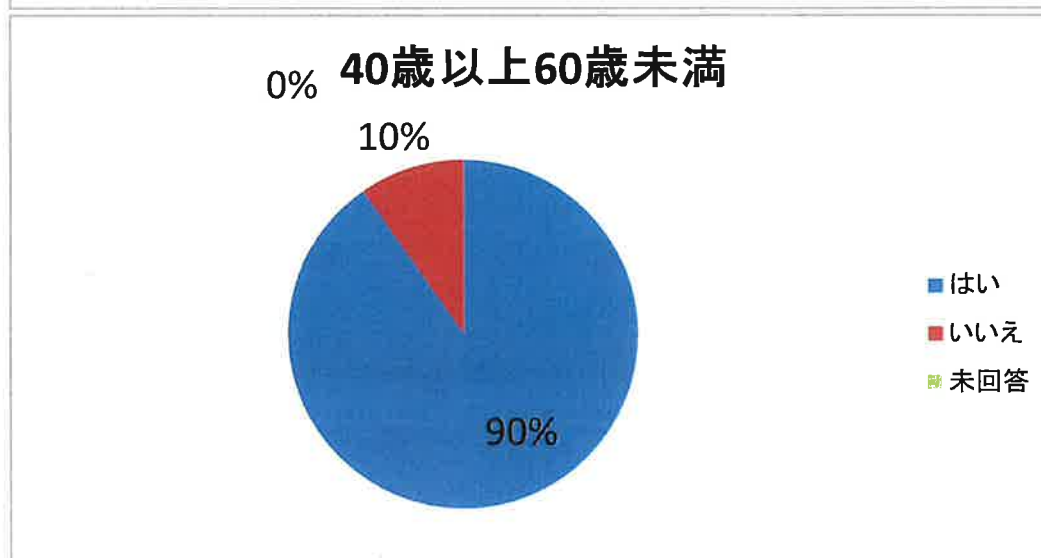
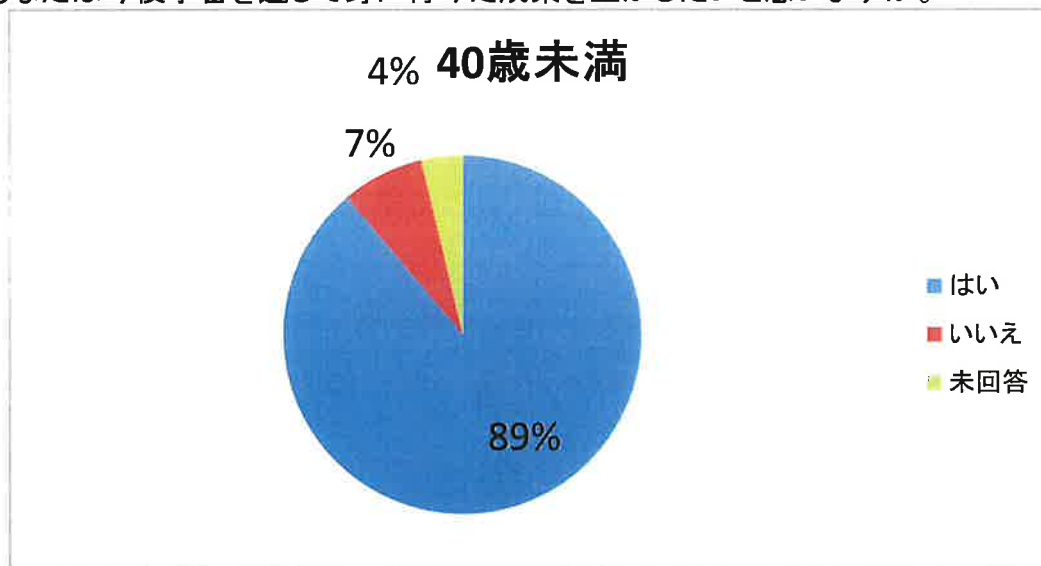
問8 あなたが学習の機会を知るときに、どのような方法を利用していますか。
(3つまでお選びください)



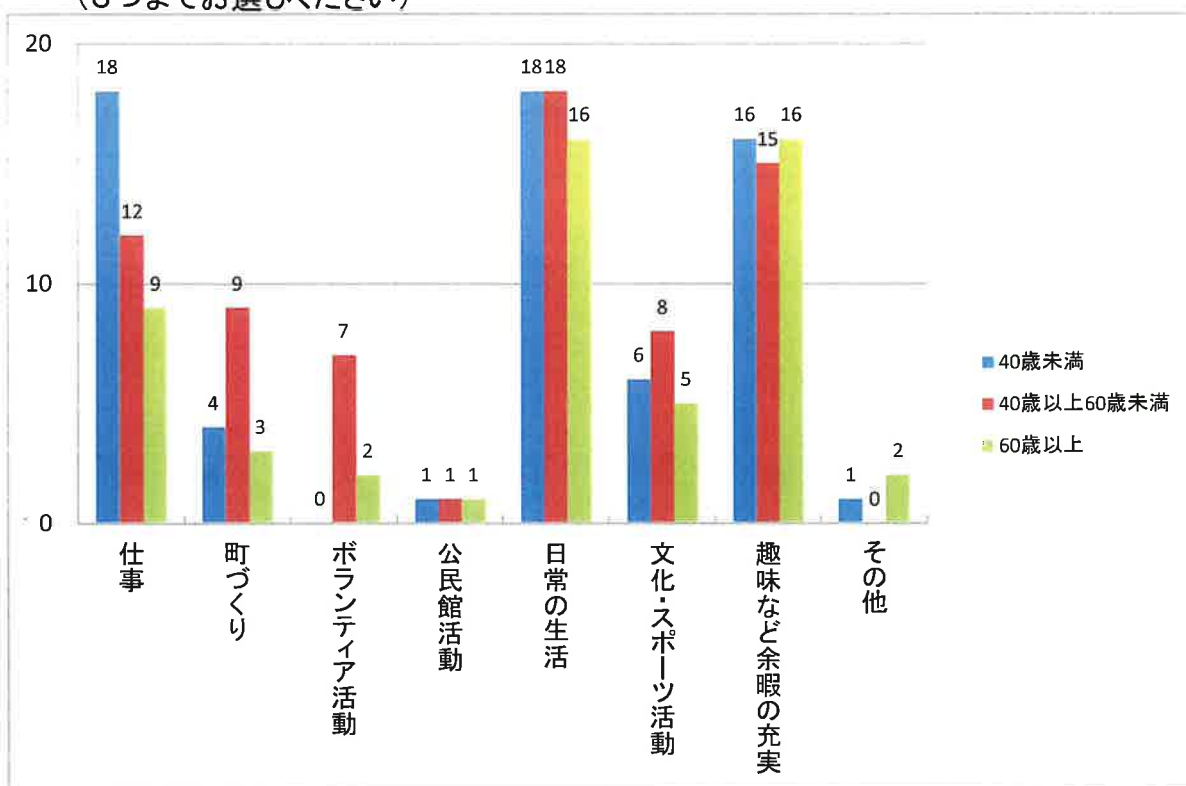
問9 今後、充実してほしい方法はどれですか。(2つまでお選びください)



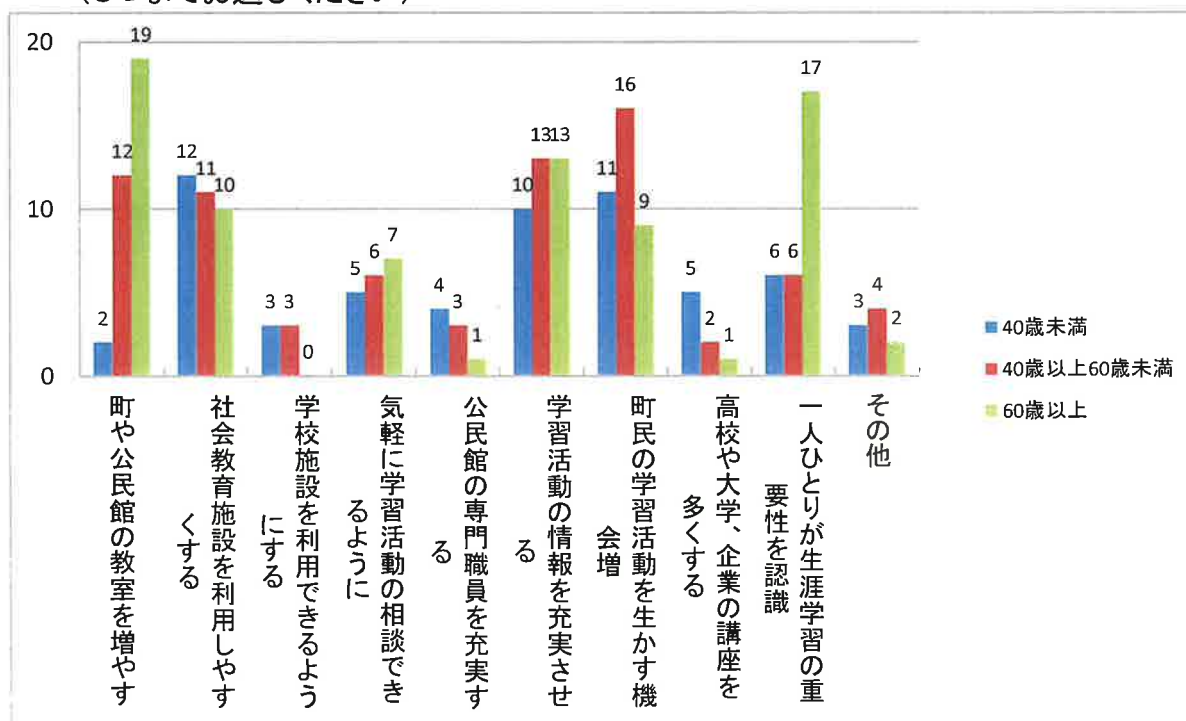
問10 あなたは今後学習を通して身に付けた成果を生かしたいと思いますか。



問11 どのようなことに生かしたいですか。
(3つまでお選びください)



問12 あなたは、今後、町民の学習活動を充実させるために何が必要だと考えますか。
(3つまでお選びください)



「その他」の記述

問4 今興味をもっていること

- ・物価高騰

問5 今後学んでみたいと思うこと

- ・今後の生活（退職後の生活）について
- ・町の歴史

問7 今後、利用したい・充実してほしいと思うもの

- ・インターネット動画
- ・郷土料理や伝統文化などお年寄りの知恵
- ・スマホがこわれた時気軽に聞ける場所
- ・町の Wi-Fi 環境を整える
- ・若者交流運動会、若者スポーツ大会、沼沢湖畔を活用した防災キャンプ
- ・人との対話

問8 学びの機会を知る方法

- ・センスよくお洒落に
- ・自然との関わりから

問9 今後充実してほしい学びの方法

- ・太平洋戦争（大東亜戦争）、原爆の記録など
- ・自然との関わりから

問10 学習の成果を生かしたいか

- ・現状のままで良いかも？

問11 学習の成果を何に生かしたいか

- ・災害が発生した際
- ・戦争反対、核兵器に反対する

問12 学びの機会を充実させるために必要なこと

- ・インターネット、各電波、Wi-Fi の整備
- ・ネット環境の整備・充実（フリーWi-Fi 等）
- ・バスやタクシーなどの移動手段の整備
- ・興味がある内容の講座
- ・とにかく若い移住者を増やす

- ・親子で学べるものや近隣町村で合同で開催できるものなど、学びの内容を検討していく
- ・自分自身をもっともっと深く知ること

自由記述回答

衣食住に関する郷土的な体験学習をしてみたいです。

山菜とり、きのことり、保存食づくり、みそ・しょう油づくり、郷土料理、どぶろく、草木染め、ふんどしづくり、はんてん、さしこ、ワラ細工、うるし、マタタビ、カサ、かんじき

沼沢湖畔を活用した防災キャンプの実施

テント設営、火おこし・消火、簡易トイレの組立て方、炊飯（炊き出し体験）、ロープ結索、就寝体験、バケツリレー、AED 体験

金山町の財産ともいえる古民家、空き家の有効活用を徹底する。（温泉のエネルギーの有効活用も）

何か、資格取得できるものなど、今後に役立てていけるものがあると良いかな。

議会について学ぶ機会があったら良いなと思います。

- ◎ 年代を超えて一緒に学べる場があるといいなと思います。たとえば、防災について（どんな時にどのように行動したらいいのか。家に置いておく物。町として準備している物はどんな物で、どこにあってどうやって使用するのか、など。確認と訓練を兼ねて年に1回でも。小学生や中学生も一緒に AED の使い方を勉強する、とか。）
- ◎ 資格を取りたい時に、どこに行ってどのように勉強したらいいか案内があると助かります。
- ◎ 充実した図書館がほしいです。
- ◎ 高校や大学の公開講座や企業の教養講座など数多く開催をぜひお願いします！ ただ平日は仕事のため行けません。

町に残る伝統文化を、若い世代に伝えていく取り組みは、積極的に行ってほしいと思います。

過去を知る世代は徐々にいなくなってしまうので、早急に、若い世代に興味を持ってもらいやすそうな形で残せるといいなと考えています。

10代～20代の、町に帰ってきた人や帰省時に自宅以外で学習をしたい人にとって、町は図書館のような、静かに集中できる場所が少ないと思います。予約が必要だったり事前の連絡が必要だったりすることは仕方がないことだと思いますが、やはりその分思いたった時に気軽に行って利用できる場所・機会の提供があれば嬉しいと感じることが多々ありました。また、あっても普段町内で生活をしていない、慣れていない人は情報を知らずに諦めてしまうことも多いと思います。だからそういう人のために、インターネットですばやく欲しい情報が入ると、生涯学習に限らず若年層の学習活動が活発になるのではないかと思います。

何を学ぶかではなく、学んだことと、学んでいるということをお願いしたい。

動画配信サービスなどでの学習ができれば、時間を有効に使って学べると思う。

町民が集まって過ごす時間は、とても良いことだと思います。

もっといろいろな会があったらと、たとえば編み物、針仕事、優れた技術を持っている人はたくさんいると思います。ぜひ習いたいです。

学ぼうとする意欲が出れば、充実したより楽しい人生の糧となると思います。広いジャンルでの取組みを期待しております。

コロナの時代で行事を計画するのもなかなか大変と思いますが、行事は多い方が良いです。

町や公民館が主催する講座は参加しやすいので、もっと数や内容が幅広いと良いと思います。一方、町民主体のものは少ないので、町がどうしたら町民が主体的に企画できるようになるか考え、補助金なども充実させ、活性化できるようサポートが必要だと思います。

学習の機会をより多く提供することやその内容をより濃いものにすることも大事なことです。それが町民にうまく伝わらなければ効果が減ってしまいます。

数多くの広告をだすことも大切ですが、質がより大切だと考えます。

学習の内容も大切ですが、町民がより興味を持ってくれるような、より魅力的な情報の提供の仕方もまた充実させるとよいと思います。

仕事をしていなかったりして、社会とのつながりが薄い時期は特に、生涯学習の必要性を感じる。それぞれの人がそれぞれのステージで学びたいことはあるはずなので、よく話を聞いて、必要な学習機会を提供していただきたいと思う。

町の人々がどんな学びをしたいか把握することは、どんな町に行けるかが見えて来ることだと思う。1人1人の意欲を大事にして、町が形作られたらよい。

なぜ自分は、今この時代に、この瞬間に、この地球という星の日本という地で生きているのか？ どこに向かって自らの生命は流れているのか？ その答えは、他のだれも教えてはくれないもの。それこそが自分自身にしか分からない真理の一つ。誠実に、素直に生き、その答えを自らの揺るぎない信念として通して暮らしていると、ささいな日常の一つから本当に学ぶことが多いです。

暮らしを通し、自らの殻というエゴを一つ一つ丁寧に清めていくことで、人生が日々豊かになっています。こんなにもすばらしい人生の機会と場を頂き、本当にありがとうございます。

町や公民館の行うものは、土・日の開催が多いですが、土・日は他の予定があり、なかなか参加できません。働いている人は、平日の夜の開催だと参加できることも増えるのではないのでしょうか。

講座や講習会は、ほとんどが平日に開催されているので、なかなか参加することができません。

ぜひ、ネットで配信していただけると、自由な時間に観ることができるし、何度も確認したりと、便利だと思うので、検討して下さい。

講習会等を受ける場所への移動手段が高齢者には大事です。

金山町内施設にて生涯学習を行う際には、自家用車を所有しない高齢者のために送迎バスの配備があると良いと思います。

若い頃から携わって来たスポーツクラブ以外、町や公民館が計画してくれた講習会や色々な教室などには、ほとんど不参加でした。興味のある講演会などは参加してきましたが、これから年をかさねて行くなかで、積極的に受け入れて行けるかどうかはわかりませんが、生涯学習、地域とのつながりの大切さは実感しています。

高齢のため生涯学習には参加出来ないと思いますが、出来る範囲で参加したいと思っています。

人生早いもので80年になります。最近は健康第一に考える様になりました。

家族に世話にならずに毎日を過ごせればと思っております。公民館での講座、講習会等に参加してこれからの楽しみ方を見つけていきたいです。

生涯学習について私自身がまだあまり興味がない為、お役に立つような意見・アンケートが書けません。すみません。

生涯学習を行う気力も時間も体力も無い。

63年6月ボストーク6号で地球を48周、女性として初めて約71時間の宇宙飛行を経験したワレンチナ・テレシコワが、こう言っています。宇宙に出ると地球がいかに小さくて壊れやすいものを感じられます。小さく青く輝く地球、この青さを核戦争の黒い灰で被ってはいけません。私たちは地球号という大きな宇宙船で、一緒に飛んでいるのですから。(2020年6月、核兵器の総数は、9カ国、13,410発)